

# 5 用語の定義と概念

## ■はじめに

この項では、本ガイドラインの治療、ケアを考えるうえで、整理しておくべき用語の定義について本文から抜粋してまとめた。ここに挙げた用語（日本語訳）や定義は、今後、日本緩和医療学会のみならず関連団体を含めて、用語の統一を行っていく過程で変更される可能性がある。

### 呼吸困難

呼吸時の不快な感覚。dyspnea/breathlessness/shortness of breath

### 呼吸不全

呼吸機能障害のため動脈血ガス（特に  $O_2$  と  $CO_2$  ）が異常値を示し、そのために正常な機能を営むことができない状態。定義上、動脈血酸素分圧が 60 Torr 以下の状態を指す。急性呼吸不全と慢性呼吸不全がある。respiratory failure

### 心理療法

患者が困っていることや悩んでいることを専門家との会話や対話を通して解決または自己受容あるいは自己変容していくもの。

[厚生労働省、e-ヘルスネット、<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/heart/yk-088.html> より引用]

### 看護ケア

健康の保持増進、回復に関するケアを意味する。

[注] 本ガイドラインでは、非薬物療法のうち看護師が関わる可能性がある介入を看護ケアとした。

### 呼吸リハビリテーション

呼吸器の病気によって生じた障害をもつ患者に対して、可能な限り機能を回復、あるいは維持させ、これにより患者自身が自立できるように継続的に支援していくための医療。

[注] 本ガイドラインでは、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会/日本呼吸理学療法学会/日本呼吸器学会「呼吸リハビリテーションに関するステートメント」の定義を引用した。

### 呼吸理学療法

呼吸障害に対する理学療法の呼称および略称さらには総称であり、呼吸障害の予防と治療のために適用される理学療法の手段。

[注] 肺理学療法あるいは胸部理学療法は欧米での chest physiotherapy に相当する用語である。Chest physiotherapy は通常、伝統的な気道クリアランス法、特に体位ドレナージとそれに付随する排痰手技（特に軽打、振動）に代表される気道管理に関する理学療法手技のみを意味するものである。呼吸理学療法と、肺あるいは胸部理学療法は、しばしば混同されているが明確な相違がある。

### 酸素療法

低酸素血症を是正するために、適量の酸素を投与し吸入気の酸素濃度 ( $FiO_2$ ) を高める治療法。oxygen therapy, supplemental oxygen など

### 高流量鼻カニューラ酸素療法

加温・加湿した一定濃度の酸素を高流量で経鼻的に投与する新しい酸素療法。Nasal high flow therapy, high flow therapy などとも呼ばれる。high flow nasal cannula oxygen (HFNC)

### 送風療法

扇風機（手持ち型、据置型、卓上型、ネック型など）を用いて顔に向けて風を送る支援のこと。fan, fan therapy など

### オピオイド

麻薬性鎮痛薬やその関連合成鎮痛薬などのアルカロイドおよびモルヒネ様活性を有する内因性または合成ペプチド類の総称。opioid

〔注〕本ガイドラインでは、日本緩和医療学会『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版』の定義を引用した。

### オピオイドナイーブ

オピオイド未使用の状態。opioid naive

### VAS

水平あるいは垂直に引かれた 100 mm の直線の両端に両極端の状態（例えば「息苦しさはない」「これ以上の息苦しさは考えられない」）を記載し、最も当てはまる線上にマークする自己評価法。visual analogue scale

### NRS

0～10 の両端に両極端の状態（例えば「息苦しさはない」「想像しうる最もひどい苦しさ」）を記載し、最も当てはまる数字を選択する自己評価法。最大値は 10 以外に設定されることもある。numerical rating scale

### 修正 Borg スケール

身体活動能力の評価を目的として開発されたカテゴリ尺度で、0～10 の 12 段階（0.5 を含む）の呼吸困難の強さを選択する自己評価法。modified Borg scale

（山口 崇）